



SANJO ROTARY CLUB

三条ロータリークラブ

週報 No. 36

2021.5.12(No.3081)

ロータリーで良いことをしよう

第2560地区ガバナー／佐藤 真  
 会 長／野崎喜一郎  
 会長エレクト／歸山 肇(クラブ奉仕A)  
 副 会 長／松永一義  
 幹 事／渡辺良一  
 S A A／五十嵐博宣  
 会 計／柳取崇之  
 直 前 会 長／若槻八十彦

例会日／毎週水曜日12:30～  
 例会場及び事務局／  
 三条市旭町2-5-10 三条信用金庫本店内  
 例会場／TEL 34-3311  
 事務局／TEL 35-3477 FAX 32-7095  
 E-mail: sanjo-rc@cpost.plala.or.jp  
 http://www.soho-net.ne.jp/~rotary/  
 (~はshiftを押しながら“へ”のキーを  
 押してください)

■本日の出席会員数:59名中43名  
 ■先々週出席率:91.53%



## 会長挨拶 「山口県」

野崎喜一郎 会長



65歳以上の人のコロナワクチン接種の受付が、5月6日から始まりました。対象の人は申し込みましたか。私は5月2日に一回目の接種を受けてきました。これは、三条市が地元住民と接触する機会の多い自治会長や、民生委員などに優先的に接種してもらう為との説明がありました。

当日は特に痛みも無かったのですが、翌日左肩のあたりが筋肉痛の様な痛みが有りました。その他には異常は有りませんでした。二回目は23日の予定です。

山口県の有名な観光地は萩市ではないかと思えます。なかでも松下村塾は皆さんも見学に行った事があるかと思えます。幕末の頃、吉田松陰が若者を集めて勉強した所です。ここで学んだ高杉晋作、伊藤博文、山縣有朋など有能な人たちが現れ、明治維新へと続いていきました。行って見られた人は分かると思いますが、こんな小さな家で一生懸命勉強したのかと考えさせられました。人間は環境よりも、熱意で成長するものだと思います。

もう一つ、巖流島にも行ってきました。宮本武蔵と佐々木小次郎が決闘した所です。小さな島ですが、二人の決闘を表した像が建っています。大変有名な決闘の話ですので、ここ



ロータリーは機会の扉を開く

2020～2021 年度国際ロータリーのテーマ

に行ってみるとロマンを感じます。この島の正式名は船島と言うのですが、決闘で佐々木小次郎が敗れたあと島民が小次郎の剣の流儀の名前を取って、巖流島と呼ばれるようになりました。この巖流島は関門海峡にありますので近くを多くの船が通行しています。潮に乗っている方はアツというまに進んでいきますが、潮に逆らっている船はなかなか進むことが出来ません。それ程潮の流れがきつい所です。

国体のヨット競技ではメインセールに38cm×38cmの県名を漢字で表示しなければなりません。レース運営の人や、観客の人たちが何県の選手か判る様にするためです。ヨット連盟で県名のシールを作って1文字2,000円で各県が買って貼り付けます。ところが、山口県はいつも手づくりです。黒いテープで山口と貼り付けるのです。皆さんお分かりだと思います。山口なら誰でも作れます。これだけは山口県が羨ましかったです。新潟や鹿児島ではとても作れません。

## 幹事報告



### 渡辺良一 幹事

◎国際ロータリー日本事務局より

「5月ロータリーレートのご案内」

5月1日より 1ドル=109円

◎佐藤ガバナー事務所より

「ガバナー月信 5月号発行のお知らせ」

◎第4分区 丸山ガバナー補佐より

「IM規模縮小・会場参加者変更のご案内」

6月19日に開催される第4分区IMは規模を大幅に縮小しての開催となりました。会場参加は各クラブ会長のみとなります。

◎高尾ガバナーエレクト事務所より

「地区研修・協議会の開催規模縮小のご連絡」

5月22日に開催される地区研修・協議会は会場参加の人数規模を縮小することになりました。

RLI日本支部ファシリテーター委員長 中村靖治様の基調講演もリモートで行います。

◎地区事務所より

「2021年決議審議会 決議案提出のお願い」

決議案の提出締切 6月7日(月)

◎地区ローターアクト委員会より

「2020-21年度 ローターアクト地区協議会のご案内」

日時 6月6日(日) 10:00~16:00

開催方法 ZOOM

◎高尾ガバナーエレクト事務所より

「ロータリー奉仕デー実施のご案内」

内容 海岸河川等の美化プロジェクト

日時 9月12日(日) 午前中

場所 新潟県内(詳細は未定です)

## ニコニコBOX

野崎喜一郎会長

端午の節句なのに鯉のぼりを見ません。加茂川に行かないと見られないのでしょうか。

渡辺良一さん

昨日1回目の接種してきました。腕の痛みはありますが今のところ元気です。次は6月です。

荻根澤さん、卓話ありがとうございます。

荻根澤隆雄さん

五月晴れ!! 大変爽やかですが、少々びびっております。

衛藤泰男さん

コロナワクチン接種予約が6月4日で取得出来ました。

小越憲泰さん

荻根澤さんの卓話久しぶりです。楽しみです。

野水靖之さん

新緑・五月晴れ、とても良い陽気ですが、世間はコロナで、まだまだ不安な毎日です。せめて心はニコニコで頑張ります。

若槻八十彦さん

暖かい日が続いて、気持が良いですね。

荻根澤会員の卓話に期待しています。

吉井直樹さん

新緑がまぶしく、良い季節になりました。

本日荻根澤さんの卓話、楽しみにしてきました。

梨本次郎さん

5月もよろしくお祈りします。

伊藤寛一さん、 渡辺勝利さん、 近藤雄介さん、

金子俊郎さん、 中村信一さん、 杉山幸英さん、

斎藤弘文さん、 松永隆夫さん、 五十嵐晋三さん、

柳取崇之さん、 丸山行彦さん、 歸山 肇さん、

船越良則さん、 石橋育於さん、 相場弘介さん、

早川滝徳さん、 小林吾郎さん、 小出子恵出さん、  
山田富義さん、 高橋 司さん、 安達俊明さん、  
落合孝夫さん

萩根澤会員、 本日は卓話ありがとうございます。  
お話し楽しみにしております。

5月12日分 ￥ 31,000  
今年度累計 ￥ 1,182,000



### ガバナー賞

2019-20年度 米山記念奨学会寄付 個人表彰  
小越憲泰 会員



ロータリー米山記念奨学会より



小越憲泰 会員へ  
「第14回 米山功労者メジャードナー感謝状」  
吉井直樹 会員へ  
「第1回 米山功労者感謝状」

## 社会奉仕委員会

杉山幸英 社会奉仕委員長より

# 「トリムの森 草刈り」 参加ご協力をお願い!



日 時 2021年 5月 29日(土) 午前 7時より  
集合場所 トリムの森

- ※ 雨天決行とさせていただきます。各自雨具のご用意をお願いいたします。
- ※ マスクの着用をお願いいたします。
- ※ 当日の参加はメイクアップ扱いになります。

## 「卓 話」



### 荻根澤隆雄 会員

今日は私の外遊に関する話と思います31年前(1990年)の11月に1週間の日程でシンガポール・マレーシア・タイランドの三か国を旅した時の話をさせていただきます。大変に取り留めのない話になるかと思いますが暫くの間お付き合い願います。

32～33歳の時でした。当時、私は県の異業種交流会第一期生としていろんな勉強をさせて頂いておりました、その後、その交流会は「あさひ研究会」と名称を付けて会員交流を行いました。会の事業では研修会と称して国内のいろんな地域に出掛け企業見学など見聞を致しました。

交流会が出来て6、7年経ったときだったかと思いますが、交流会の座長を務めておられました長岡技術科学大学副学長でありました手嶋立男先生が皆で東南アジア諸国を巡ろうとの発案で実現した研修会でありました。よくある事ですが確固たる目的があった訳ではありません。単に視野を広く持つと良いくらいの感覚でありました。

1990年11月

シンガポール・マレーシア・タイ(三か国)  
研修旅行道中記(雑記)

参加者 手嶋先生・ピコイの坂井さん・吉川メタルウエアの大竹さん・片岡製作所の片岡さん・シンワ電子の鈴木さん・藤原商店の藤原さん・七里商店の七里さん・丸栄機械の岡部さん・エムディケーの宮山さんと私の10名での道中記であります。

#### 一日目：11月2日(出発日) 晴れ

燕三条駅12：08発 とき412にて上野まで、上野に着きますと京成上野駅からスカイライナーにて成田へ、出国審査手続きを済ませてフライト時刻まで待機、定刻の18：00にシンガポールはチャンギ空港へ向けて離陸、ノースウエスト航空7便である。初めてジャンボ機に搭乗しました、窓から望む関東の夜景は綺麗でした。機内は比較的的空いていたので好きな席に座る事が出来た、が機内の音は想像よりでかくうるさかったのですが直になれました。機内食は余り美味しくなかったのですがお腹も空いたので一応全部食べる。

うつらうつらしているうちに寝てしまいました。現地時間22：20頃に着陸態勢に入るとの機内アナウンスで目を覚ましました。

チャンギ空港に向けて5000フィートあたりからどんどん降下していった、暗闇の中、月明りで陸地の川や沼が照らされて確認が出来ました。23：00着陸、入国審査を済ませゲートを出ると周さんと名乗るガイドが迎えに来ておられました。お世話になります。ベンツに乗ってホテルへ、車内でシンガポールドルと両替をして貰う、インペリアルホテルに到着0：00である。ミーティングの後0：15部屋へ入る、宮山さんと同室で二日間お世話になりますと交わし、荷物整理の後0：45就寝。

#### 二日目：11月3日 薄曇り シンガポール市内観光

7：00起床 外は明るい 8：30朝食(バイキング)  
9：30皆揃ってホテルを出発、やはり前日のベンツに乗り込みマーライオン公園へと移動、シンガポールの象徴でもあるマーライオンの口からは残念ながら引き潮の為か水が出ていなかったのである。また、意外に小さかった様に感じました。が、此処は異国、何とも言いようのない雰囲気である、塩の匂いすら違っている、男ばかりで来る所ではない・・・今少し見たかったが先を急ぐ、次は福建寺院、チャイナタウンの一角にある寺院です。シンガポールで一番古い中国寺院だそうで1814年福建省の道教信者によって運ばれてきた建物だとの事。次はマウントフェーバーである。貿易港シンガポールが良く見渡せる高い場所でセントーサ島へ行くゴンドラの駅がある。乗ってみたかったが移動して熱帯植物園に行く。蘭の花が綺麗だ。数千種もあると云われている、すごいコレクションだと思う。花に魅せられてつい装飾品を買ってしまう。蘭の花に金メッキ(22K)を施したブレスレット・・・続いて金の加工工場と即売場へと移動、その次はワニ革製品の加工工場へ・・・ほかの革製品も即売していた、念願の革財布を買って求める、某ブランド品もいくつかありました。

昼食はネプチューンレストランで飲茶。マーライオン公園を通り過ぎて直ぐでした。かなり広い場所だ。夜は相当賑やかな所と感じた。ここからは港が良く見える、雰囲気は悪くはなかった。みんな結構飲んだり食べたりしている、勿論私もそうである。

一度ホテルに戻ってからヤオハンデパートさんへ行く、15：00頃でしたが店内を案内して頂いた、すでにクリスマスの飾り付けが始まっていたのである。

店内の電化製品の99%は日本製、他の商品は結構様々な国から調達している、衣類は国内で調達出来るとの事。食べ物の殆どはマレーシアから入る。かなり多くのお客が入っているように感じました。電化製品売り場は若者で一杯でありました。夕食前に一旦ホテルに戻る。

夕食はシーフードレストランへ、次々に出される料理も量的には少ない様感じた。食事を済ませるとホテルに戻る。ガイドの周さんをお願いして5人で某クラブへ、しかしそこは完全に日本だった。日本人ばかりのお客、それにカラオケ。我が儘を言って別の店に案内をして貰う、キャバレーである。現地人ホステスのいる店だが片言の日本語は通じる、隣に座った女の子の名前はレナ・ハウ (LENA・HOW)。中国系だそうだ、少し細身の体形でロングヘア。暫くして彼女をお願いしてホテルに戻り同室の宮山さんを連れ出して一緒にニュートンサーカス(屋台市場)へ連れて行ってもらった、時は0:00頃、沢山の人達が集まっていた。人種も様々である。言葉が分からないので全部彼女にまかせた、結構おいしいものを食べさせて貰った。1:30にホテルまで送ってもらい部屋でジュースを飲んでから彼女は帰った。大変に楽しい夜だった。2:00に就寝。

### 三日目：11月4日 雨のち快晴 マラッカへ

7:00起床 5時間の睡眠だ、外は小雨 8:30朝食を摂る、前日と同じバイキング料理。近くのテーブルに日本人の女の子3人連れが座る。尋ねたら山梨県は甲府市から来た大学生との事、変なオジサンと思われるといけないのであとは余計なことは聞かない。

10:30チェックアウト。ベンツに乗り込んでジョホールバル(マレーシア)へと向かう、ハイウェイを走っている内に雨が止み、日が差してきた。約1時間位で国境へ。国境はコーズウェイと云う橋の真ん中だそうだ、後部席より望むとコーズウェイの左側にかなり太い水管が3本走っている。シンガポール国民と観光客の命の水である。出国手続きの待機時間中にも生鮮食品やニワトリなどの食品がトラックで運ばれて行った。ニワトリの輸送トラックの走り去った後は鳥の羽が舞っている。大分待たされたが12:10頃に漸く出国・入国手続きが終了し車に乗り込む。此処からは女性ガイドが一緒になってくれた。マレー鉄道乗るまで今日一日案内してくれるとのこと、名前は忘れてしまいました。すみません！

暫くしてある民家で休憩することとなった。その民家には近所の子供たちが大勢集まっていて日本の歌を歌って我々一行を出迎えてくれた。学校が休みになるところで集まって観光客をおもてなしするそうだ、しかもボランティア活動なのだ。そっか、今日は日曜日。

心暖まる歓迎と雨上がりの日差しとで汗が一気に噴き出してくる、しかし現地の方は涼しい顔をしている。子供たちの目がキラキラと輝いていたのが印象的だった。「上を向いて歩こう」「さくらさくら」

などを歌ったり、楽器を演奏して聞かせてくれる、30分位居ただろうか・・・そろそろお別れである。我々に向かっていつまでも手を振っている「さようなら・さようなら」と言っていた。少し目頭が熱く感じたのは私だけだったろうか・・・よき思い出になった・・・サヨウナラ。

次は異国情緒豊かなサルタン王宮(現在は博物館)へ、当時の国王の富と権力が想像を絶する。世界各国からの贈り物が一杯ある、素晴らしい、豪華でまた大変に綺麗だった。王宮近くに山下将軍がジョホール海峡を見渡したと言われる建物が見えた。此処より少し行った所のアバカール回教寺院を眺め、漸く昼食である。時は13:30過ぎ。

中国風海鮮料理である、味の方はまあまあ。食事を済ませるとジョホール駅へ移動、14:30到着。待望のマレー鉄道に乗れる、駅の大きさは東三条駅位かな？ スリや強盗が多いと言われていたので気を付け乍らホームへと進む。発車予定時刻になっても列車は来ない、時間はどんどん過ぎて行く・・・3:40・・・3:50・・・4:00にやっと来た、列車は定刻通りにつくことは無いそうだ。イギリス製のかかなり古いディーゼル車である。ビックリしたのは客車の下にくっついている発電機だ。車軸に平ベルトをかけて発電機を回す仕掛けだ、本当に発電できているのだろうか・・・列車に乗り込む。ホームで女性ガイドとお別れだ。周さんとは駅前で既に別れたのでガイドなしでの移動だ。列車は47分遅れでジョホール駅を出る、どんどんとスピードを上げる。列車の窓から望む両側の景色はヤシ畑とゴム園の連続だ、延々とヤシ畑が連なっているな～と思っていたら、かなり強い雨が降っている所を通過した、スコールド。

車中ではマレー鉄道の車掌との交流、現地人たちとの交流、まさに国際交流だ、日本人に対しては本当に好意的に感じられた。話は前後するが列車が40~50分遅れても誰も文句は言わないし只じっと待つ・・・おとなしい。騒々しいのは異国の観光客？ 本当に現地の方は無口でおとなしかった。先生はすぐに寝てしまう、大竹さんと私はいつ再び来られるか分からないので車窓の景色をしっかりと見ようと気張ってじっと眺めている。木々を伐採した後の焼け野原が延々と続いていたところもあった。車内で働く人達・車掌・車内販売の売り子・床掃除婦(インド系の女性が箒をもって中央通路を掃き進む、何往復もするのだ)・・・車窓より眺めた夕日が余りのも鮮やかな赤色をしていた、本当に真っ赤である。太陽を赤く書く意味が今更ながら理解出来た、本当に美しかった。19:20陽が沈んだ。いつの間にか列車は10分遅れ迄時間を取り戻していたのである。

19:30タンピン駅に到着、ホームで次なるガイドさんが待っていてくれたのである、リムさんである。タンピン駅より車で50~60分駆けてマラッカへ移動、今夜の宿泊先ラマダホテルで21:00頃にやっと夕食にありつける。23:00眠りにつく。

新語「ラバータイム」

#### 四日目：11月5日 雨のち晴れ

##### マラッカよりクアラルンプールへ

6:40起床(何とか目が覚める)カーテン越しにそっと外を覗いてみるも未だ暗い……ライトを点けた通勤車両で道路は混雑している。ライトの明かりで雨が良く降っているのが確認出来る……残念、雨か。

7:40外が明るくなって来た。先ほどよりは雨の降り方が弱くなっている、部屋の窓から見える景色、色彩こそ少ないが田舎風の素朴な街並みが何となく心を落ち着かせていた。部屋の作りは結構広くて感じが良い、一泊では勿体ないくらいだ。今一度このラマダホテルに来てみたいと思う。8:30朝食、9:30チェックアウト、マラッカ市内観光だ。先ずはチェンフーン・テン寺院へと向かう、マレー最古の中国寺院との事、老若男女多くの人々が参拝に来ている、お線香の匂いと煙が凄い、建物が燻製にあって様だ、此処もスリが多いとの事で少々気が張る。次はスタダイス、サーモンピンク色の建物で市庁舎と教会と時計塔だ。1660年、オランダ総督の邸宅として使われたらしく東南アジアでは最古のオランダ建築との事、教会の中に入ると200年前に描かれたと云う最後の晩餐会の絵が祭壇の中央に配置されていた。次はサンチェゴの砦である、16世紀にマラッカ海峡を支配したポルトガル軍の要塞跡である、19世紀に入ってイギリス軍によって一部が取り壊され現在に至っているそうだ。海岸から直ぐ近くで30~40メートルの高台にある、此処からのマラッカ海峡はジョホール海峡と違った感じがする、海峡の大きさが全然違うし沖合の船が大きな船ばかり、タンカーも見えた、日本の船舶も寄港するとの事、すぐ近くに博物館がある。時刻は12:00、此れより10分位移動致し中国レストランにて昼食を摂る、ウェイトレスは皆14~15才位、中学の義務教育が終わると殆どの子供達は仕事に就くそうだ、30年前位の日本みたいだ。13:00アイコロハイウェイ(高速道路)に上がりクアラルンプールへと走る、この高速道路は日本の熊谷組が建設したとの事、先生より説明があった。良い道である、道の両側は相変わらずのゴム園やヤシ園が連なっている、小高い山間をぬっているので景色が開けているところが結構多かった、料金が安い、マラッカよりクアラルンプー

ルまで約120km、マレーシアドルで6ドル・日本円で300円位になる。クアラルンプールに着くと最初に国家の英雄(兵隊)の慰霊の塔を見学、国会議事堂、旧裁判所、回教徒の寺院などを見学し17:20にホテルに到着、ホテル名はメリアホテルである。結構大きなホテルだ、しかし残念ながら部屋のサービスが良くない。あちらこちらの部屋でトラブルが続出し面白くなって来た、あとで聞いた話だけれども、このホテルはしょっちゅう経営者が変わっているそうだ。当然社員教育が行き届く筈がない、部屋には入ったが故障でシャワーが使えない、夕食に出掛ける時間になってしまい浴びる事が出来なかった。19:30車で夕食会場へ、マレーシアの民族舞踊や結婚の儀式などのショーを見ながらのバイキング料理だ。我がグループより4人が儀式の飛び入り参加をする、今研修旅行でカメラを持ってきたのは先生一人、皆に言われてシャッターを切るも、切りすぎてショーが最高潮に達したときはフィルムが無くなってしまった、残念。21:20会場を後にしてホテルに戻る。就寝は22:00。

#### 五日目：11月6日 晴れ バンコック(タイランド)へ

7:20 起床 晴れている。丁度、陽が昇る時間だった、強烈な朝陽が目に入る、眩しい……8:30に朝食を摂り、10:10チェックアウト、10:30ホテル出発、街並みを見ながらクアラルンプール空港へ進む、11:00到着、直ぐに搭乗手続きを取る、12:00出国手続きを済ませガイドのリムさんとは此処でお別れである。さようなら……

13:00 離陸、約1時間30分のフライトの予定、昼食は機内食、ビーフ・ライス・サラダ・パン・ジュース・コーヒー・全部頂いた、念のため胃腸薬も……「程々にしないと」と思いながらも今日は身体の調子が良い。14:30バンコック空港へ到着。入国審査を済ませてガイドさんとの待合場所へと進む、すでにガイドさんが待っていた。

ビックリ子供ではないか? 更に女性と聞いて目を丸くしてしまいました、私から見るからには15歳前後の男の子に見えたのである、すみません……名前はジラワン(JIRON)、ガイド歴1年半との事、兎に角、宜しくお願い致します、である。まだ迎えの車が来ていないとの事、しばらく待つ。15:20漸く車が来た、乗り込む。最初に予定外ではあるが変わった所に連れてって貰う、何と軍隊の訓練施設へ入る、実弾射撃をさせてくれるのだ、ライフル・ピストルで38口径・45口径50発で¥13,000、兵隊が一人ひとりに付き添って弾込めをしたり、操作扱いを教えてくれる。まさか実弾射撃が経験出来るとは思わなかったのが感激ものである。岡部さんは現役

ライフル射撃愛好者でもあるので喜んでいて、でも「火薬の量を減らしてある様だ」とも言っていた。しかしガイドさんに感謝、実に良い経験だったし、良さ思い出になった。車中でガイドさん曰く、「タイの兵隊戦争下手だけれど商売上手」に、皆爆笑。

次はワット・ベンチャマボピット(大理石寺院)へ入る、本殿の廻りには52体の仏像が並べて奉られてあった。この寺院は大理石で出来ており1899年にラマ5世がイタリアから取り寄せた大理石で建立したそうだ。また、廻りの仏像は青銅製である、日本の仏像もありました。次にワット・ポー(涅槃寺)、50M位の根釈迦像が安置されている、金色がまばゆい、根釈迦像の頭から足まで、ず〜と一廻りしてワット・ポーを後にしてホテルへ向かう。時は14:30、車は渋滞に巻き込まれ少しも動かない、トイレ付きのバスで良かった、何人かが利用する。なんとホテルに着いたのが19:30分である。二晩お世話になる此処ラマガーデンホテルは大変に大きくてリッチな雰囲気漂わせているホテルだ。直ぐに丸紅さんの懇親会を兼ねたミーティングだ、様々な意見交換が交わされ大変に和やかであつという間に時間が来てしまった。何人かで懇親会の後、丸紅さんの案内で夜のバンコック市内へ、何と渋滞が無ければ25~30分で中心街へ着いてしまうのである。日本人街へ行ってみる、一軒の店に入った。

お客は日本人ばかりだ80人くらいは居たろうか、薄暗く少し狭い感じがする、20~25才位のホステスさんが多数居る、しかも美人揃い。23:30頃にホテルに戻る・・・

#### 六日目：11月7日 晴れ 市内観光(盛り沢山)

5:40起床 急いで朝食を採る6:30ホテル出発、先生と岡部さんは別行動の為ホテルに残る。通勤ラッシュで約束の時間にボートに乗れなくなるとの事で早めの出発になったのである。今日の予定は水上マーケット・エメラルド寺院・王宮・金属見本市と巡る。

残念ながらタイ日本商工会議所との会談は市内の交通事情が余りにも予測し難く相手様を待たせてはいけないので一応キャンセルとした、申し訳ない事をした。

さて、TVで見るよりもかなり迫力あるエンジンボートに乗り、チャオプラヤ川の支流にある水上マーケットへと進む、水しぶきが容赦なくかかってくる、汚いと思っても逃げ場が無い。10分前で素性マーケットに着いた、フルーツや民芸品を売りにカヌーみたいな小さな舟を我々のボートに寄せてくる、やり過ごすと次々にやって来て寄せてくる、片言の日本語で売りに来る。奥へ入ると川幅が段々と観

狭くなり観光船やエンジンボートのラッシュアワーで面白い、川辺の民芸品店に降りて店の中を眺める事20分、またボートに戻りマーケットを後にする。

次はワット・アルン(暁の寺院)だ、此処の中央の塔へ登る、気合が入っていたので調子良く登れた。上で景色を楽しみ、さあ~降りようと思って下を見たら殆ど階段が重なって見える、ほぼ垂直?恐怖感が先に立つも何とかして降りた、数分後には脚はガクガク、股の筋肉が痛くなって思う様に動けない・・・・・・

また、ボートに乗って、ワット・プラケオ(エメラルド寺院)へ進む、此処でボートとお別れだ。ワット・プラケオと隣り合わせている王宮も観る、寺院も幾つか並んでいる。スリランカ・タイ・カンボジアなどの寺院、金色の輝き、色ガラスの鮮やかさ、西洋と東洋が調和している、プラケオの本堂にはヒスイの仏壇が安置されている、荘厳な感じがする。今日は大変に暑い、汗が迸る、ハンカチは直ぐにびしょり、プラケオを出ると車が待機していた、車内の冷気が涼しい。

昼食は中国料理またはやバイキング、しかしこちらに来て初めて寿司が出たが我々グループで殆ど平らげてしまった、後のお客様にはごめんなさいである。昼食を済ませると機械見本市へ移動、タイの技術展ではあるが海外の関連企業も結構出展している、日本の企業も見受けられる、現地の見学者は熱心に見入っている。慣れていないせいか出展者側の対応にぎこちなさを感じられる。私は何処のブースに行っても「チャイニーズ?」と聞かれたが「ノー・ジャパニーズ」と答える、余りいい気持ではないが自身のネームプレートにジャパンと書かなかつた此方が悪いと反省。見本市会場を後にして民芸品店を通り過ぎ夕食会場へと急ぐも、案の定街中は相変わらず混雑している、18:00過ぎに会場に着く。メニューはタイ風しゃぶしゃぶである、異国の地での最後の夕食だ、ガイドの『ジラワンも一緒に』にと食事に誘う、ゆっくりと食事を摂る、最後の粥が美味しかった。19:00店を出る、20:30ホテルに到着・・・明朝は4:30モーニングコール、5:00チェックアウトと言われたので荷物の整理をするとすぐに寝る。・・・まだ脚が痛い、朝までに調子が戻ることを祈る。

#### 七日目：11月8日 晴れ 成田へ

4:15起床 4:40チェックアウト 5:15ホテルを出て車で空港へ

5:35バンコック空港へ到着(時間的にホテルから意外と近かった)。ジラワンに荷物を預けて最後の買い物をする。6:40出国手続きを済ませて機内へ、定刻を25分遅れて7:40成田に向けて離陸。

NW28便、所要時間は5時間27分と機内アナウンス、さようならタイランド。窓の外は快晴、今日も暑いだろうなあ～と思う。機内にてただ一人の日本人スタッフをお願いしてファーストクラスの一・二階を案内して頂いた、客はあまりいない。残念ながらコックピットは見せてもらえなかった。機内ショッピングをする、勿論免税である。

スチュワーデスは物売りまでやらなければいけない大変な仕事だ・・・高いと分っていてもつい買ってしまふ、あまりいい性格ではない。15:30 成田到着 15:40帰国手続きを済ませる、16:00にバスにて成田空港駅へ、16:30発のスカイライナーで京成上野へ、上野で夕食を済ませ18:29発の新幹線で

燕三条駅へ。

皆様ご苦勞様でした。

燕三条駅では家族が迎えに来てくれていた、ほっとする、ありがとう。

7日間、会社と家を守ってくれて感謝です。

♪ 快傑ハリマオの歌 ♪

『真っ赤な太陽 燃えている

果てない南の 大空に

とどろきわたる雄叫びは

正しいものに 味方する

ハリマオ ハリマオ ほくらのハリマオ』

次週例会 5月26日

「地区研修・協議会報告」

歸山 肇 会長エレクト

次々週例会 6月2日

「会員卓話」 関 義実 会員

